

説教余滴 2020年1月19日、時は寒中、感あり、

月日の過ぎ去ることは、大層速いものに感じます。
弥生一月も早第三主日です。

少年のころは、待ち侘びる時が先にあるのに、なかなかその日が来ないものでした。お正月、遠足、どなたも覚えがおありでしょう。逆に来ないで欲しい時は、すぐに来てしまいます。読書に集中している時、図書館の閉館時間。野球やバスケを皆で楽しんでいる最中に下校時間を知らせるベルの音。

今、一番気になるのは礼拝の終わりの時間でしょうか。説教の時間にも大いに関わりがあります。説教は、言語明瞭・意味不明と評されることが多いようです。それでは頭が下がり、臉が塞がり、「傾頭神学」に没入となります。気付いたら、讚美歌のため立ち上がる時が来ていた。この間の時間は速やかに流れています。

礼拝の終了は、帰宅の時間。しかも、昼食の時間に直結します。予定の時間を大幅に超過しないようにしてほしいものですね。説教者としては、40分はほしい、と考えていました。最近は30分程度にするように努めています。ある方が言われました。

「君、礼拝の時間は、神さまのお約束ですよ。守りなさい」。初めも終わりも約束です。それを破ることは、神に背を向けること。神様の時間を盗むことです、とも言われました。普段の生活でも、時間厳守は常識です。しかし、時間を守ることは困難です。守れない約束はしない事です。

昨年、山野草「イワシャジン」を、プランターに植えました。6月頃だったでしょうか。

9月には紫色の釣鐘型の花が開きます、と書きましたが、なんと夏前に咲き始め、10月ごろ終わったようでした。ところが、クリスマスごろから一本の茎に花がつけました。今もくっきりとした紫色を見せています。時不知(ときしらず)のイワシャジン、それとも狂い咲きでしょうか。時の主は神さま、勝手に決め込んでもいけないのでしょうか。